

麻しん（はしか）患者の発生について

横浜市内の医療機関から2月12日（火）に麻しん疑い患者の届出があり、市衛生研究所で検査を実施したところ、陽性であることが判明しました。

区福祉保健センターが患者の行動や接触者について調査したところ、周囲へ感染させる可能性のある時期に、公共交通機関を利用していたことが判明しました。

当該交通機関を 同じ時間帯に利用された方 で、利用後10日前後経ってから、麻しんを疑う症状（別紙）が現れた場合は、事前に医療機関に電話連絡の上、指示に従い受診してください。 また、移動の際は、周囲の方への感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。

【感染可能期間内に患者が利用した交通機関】

- 1 2月11日（月）リムジンバス
午前7時台前半 成田空港第3ターミナル乗車 → YCAT（横浜駅）下車
- 2 2月11日（月）東急東横線
午前9時半頃 横浜駅乗車 → 日吉駅下車

※この時間帯以外に利用された場合は、感染の心配はありません。

また麻しんは、一度かかった方及び予防接種により十分な免疫をもっている方は、かかる心配はないと言われています。

患者の概要：10歳代 女性 予防接種歴：なし
 発生経過等：2月3日 発熱
 2月8日 発疹
 2月10日 解熱
 2月11日 フィリピンから帰国※
 2月12日 市内医療機関にて麻しん疑いと診断
 区福祉保健センターに届出
 2月15日 衛生研究所によるPCR検査の結果に基づき、麻しんと診断
 ※ 機内での接触者は乗客名簿等を基に調査中です。
 なお、関西方面への旅行歴等はありません。

【麻しん発生動向】※本件を含まず [件]

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
横浜市※1	1	0	2	3	0
全国※2	35	165	189	282	148

※1 平成31年2月10日時点 ※2 平成29年、30年は暫定値、平成31年は2月6日時点（国立感染症研究所）

<お願い>
 報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、患者及び患者家族等については、本人が特定されないことがないように、格段の御配慮をお願いいたします。

お問合せ先		
横浜市保健所健康安全課長	木村 博和	Tel 045-671-2442

麻疹（はしか、麻疹）について

麻疹は空気感染、飛沫感染及び接触感染でうつり、以下のような症状が出現します。疑わしい症状がある場合には、**必ず事前に医療機関に電話連絡をした上で、マスクを着用して受診してください。**

- <麻疹の症状>
1. 38℃以上の発熱
 2. 咳（せき）、鼻汁（鼻水）、結膜の充血
 3. 全身の赤い発しん（ブツブツ）

1 麻疹とは？

麻疹ウイルスによる感染症で、感染力が強く、抗体がない人が感染するとほぼ 100%発症します。

- ・感染すると、約 10～12 日間の潜伏期ののち、熱や咳（せき）、鼻水など、風邪のような症状が出ます。数日すると、38℃以上の高熱と、全身の赤い発しん（ブツブツ）が出現します。発しんの出現する前後に、ほほの内側に白い斑点（コプリック斑）が出ることもあります。
- ・合併症がなければ、7～10 日でほぼ回復します。
- ・麻疹にかかると一時的に免疫力が低下し、回復するまでに 1 か月程度かかるといわれ、その間は他の感染症にかからないよう、注意が必要です。

2 麻疹の感染経路

飛沫感染、空気感染、接触感染により感染します。

- ・せきやくしゃみなど、麻疹ウイルスを含んだ空気を吸い込むことで感染（飛沫感染や空気感染）します。接触感染をすることもあります。
- ・熱やせきなどの症状が出現する 1 日前（発しん出現の 3～5 日前）から解熱後 3 日くらいまで、周りの人に感染させる力があります。

3 もし、麻疹患者と接触したら？

麻疹患者と最後に接触した日から 2 週間（最大 3 週間）は毎日体温を測り、健康観察をしましょう。万が一、麻疹のような症状が現れた場合は、**事前に医療機関に連絡し、医療機関の指示に従って受診しましょう。**

※ 海外にはまだ麻疹の流行地域が存在します。海外渡航を予定している場合は、渡航先の感染症流行情報を確認するとともに、渡航前に、予防接種を受けておくか、麻疹の抗体があるか調べておくことが大切です。